１－２　高津のムラの姿と祭り　（令和５年 11 月５日 講演）

蕨 由美

旧村高津は、はるか古代、都から下った藤原時平の息女高津姫の流離譚伝説が、寺院やお堂、産土の社に息づく地域である。高津姫の守り本尊を祭るという観音堂、高津山観音寺、産土の高津比咩神社を中心に、ムラには講やツジキリなどの民俗行事が継承され、特に高津比咩神社が参加する「下総三山の七年祭り」は千葉県指定文化財に、「高津のハツカビシャ」は八千代市指定文化財になっている。

1.高津は中世城館跡が残るムラ

中世の城館跡の高津館跡は、竹林に残る二重堀や屋号「根小屋」の旧家、近くの妙見社などから、千葉一族の館であったと推定されていた。2015 年の「ｅ地点」発掘調査では、後北条氏の城郭の特徴を持つ障子堀が発見され、堅固な守りの城館であったらしい。

2.高津姫伝説

『高津山觀世音　略縁起』によると、平安前期、菅原道真の祟りで亡くなった藤原時平の妻と高津姫は、東下りをして下総の久々田に至り、亡父を慕い一堂を建てその御霊を「御山明神」として三山に祀り、高津姫はさらに高津に堂を建て父の持仏「十一面観世音菩薩」を安置したという。

正慶年間（1332～4）千葉之介後胤公が姫の名から村名を「高津」とし、お堂を改築、高津比咩神社に姫を祀り村の産土とした。その傍に創設されたのが観音寺である。

3.下総三山の七年祭り

三山の七年祭りは、七年に一回、近隣９神社の神輿が三山に集う祭りである。

藤原時平の子孫が三山の二宮神社の神主となったという伝承により、９社は時平の一族と結びつけられ、二宮神社が父、高津比咩神社は娘とされる。また馬加康胤の妻が二宮神社など４社に祈り、安産した故事にもよるという。

八千代市内には七年祭りに参加する「時平神社」が４社あり、貴種流離譚神話の地域的な広がりが興味深い。

4.ムラの姿と民俗

高津の「ムラ内」は、「中村」「南」「西」「新田」の４つのニワに分かれ、それは「ツジキリ」の地点内で、また七年祭の「花流し」の神輿が渡御する範囲として認識されてきた。

集落の境には、両墓制の埋め墓や葬馬処、馬頭観音塔群があり、また不遇にも咳をして逃げそこなった男女を祀る「咳神様」の石塔もある。

このムラ内の外の村域には田畑や山林などの「内野」「内山」が広がっていて、今はその多くが自衛隊演習地や住宅地、団地へと変貌したが、かつてはムラの生産と生活を支える重要な場所でもあった。